

第14回「リサイクル技術開発本多賞」の受賞について ～磁気ので、製油所の廃棄物を削減～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)は、論文「高勾配磁気分離機によるFCC廃触媒削減技術」により、第14回「リサイクル技術開発本多賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

「リサイクル技術開発本多賞」は、長年、廃棄物リサイクルの分野に携わっておられた故本多淳裕氏(元(財)クリーン・ジャパン・センター※参与)が、自らの著書出版印税をリサイクル関連開発に従事する研究者・技術者等へ提供し、研究開発を奨励するために設立した表彰制度です。

今般、当社は、製油所における触媒廃棄量の大幅な低減が期待できる、世界で初めてとなる技術を開発したことが評価されたもので、昨日、下記のとおり授賞式が執り行われました。

FCC装置(Fluid Catalytic Cracking 流動接触分解装置)は、触媒反応を利用して重質油を分解し、主にガソリンを生産するものです。ただし、触媒の性能は、原料となる重質油に含まれる重金属の堆積により著しく低下することから、その性能を一定に保つためには、毎日、新しい触媒を補給し、それと同量の触媒を抜き出し廃棄する必要があります。

そこで、廃棄量の減少と再利用を目的に、当社では、電磁石を用いた連続式高勾配磁気分離装置によって、重金属の堆積量が多く性能が低下したものを乾燥状態で分離し、まだ性能が高いものを回収・再利用する技術の開発に取り組んでまいりました。

今般、受賞対象となった論文は、2006年に仙台製油所FCC装置の敷地内に設置した実証化装置の運転により、FCC装置の本来の性能は維持しながら、FCC廃触媒量を年間600トン以上削減し、約2億円のコスト削減を可能にした成果をとりまとめたものです。

当社グループは、「Environmental harmony(地球環境との調和)」の経営理念のもと、今後も、地球環境保全に寄与する技術開発に挑戦し続けてまいります。

※(財)クリーン・ジャパン・センター:

経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会等をはじめとする官民一体の支援のもと、1975年にリサイクル推進のナショナルセンターとして設立された公益法人。

記

1. 受賞内容:「高勾配磁気分離機によるFCC廃触媒削減技術」
2. 受賞者 : 当社 研究開発本部 中央技術研究所 CRI・触媒グループ 迫田 尚夫
3. 授賞式 : 1月28日(木)15:00～15:40
大阪市 阪急ターミナルビル17階「ふじの間」にて開催



左から、
クリーンジャパンセンター 小島理事長、
「リサイクル技術開発本多賞」を受賞した迫田社員、
同広島大学 西嶋教授、
大阪府立大学 山田名誉教授(本多賞選考委員長)

